

平成29年度学校評価(星城高等学校)

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立		
教育目標	”感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成		
今年度の学校経営方針	本年度が星城高等学校創立55周年を迎えることを踏まえ、創立者の高邁な「建学の精神」に鑑み、星城教育の原点に立ち返る。規律を重んじる学校生活の中で、主体的・対話的に深く学び、逞しい体力を身に付け、次代を担うにふさわしい人間味あふれる青年の育成を目指す。 そのために「四つの柱」(礼節、進学、スポーツ、国際交流)と「四つの保証」(学力、進路、規律、安全)を掲げて、教育活動を推進する。		
今年度の重点目標	I 規律ある学校生活の定着 V 国際交流の活性化	II GTZ等の改善 VI 特別活動の活性化	III アクティブ・ラーニングの推進 VII 安全・健康の保持増進 IV SGH活動の推進 VIII キャリア教育の推進
重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》
I 規律ある学校生活の定着	挨拶・身だしなみに対する意識の向上	第1学年	○副担任4名による登校時の挨拶指導時において、挨拶とともに服装の乱れがないかを生徒に確認させるように声がけをする。 ○授業時の号令時に「服装を正して」という言葉を入れるよう統一する。
	生徒主体の活動		○級長・副級長の中から学年リーダー・サブリーダーを選出し、学年行事の運営や、集会時の整列指示・身だしなみの確認を促していく。 ○1学年での級長・副級長会を実施し、上記の内容が円滑に行われるよう、話し合いを行わせる。場合によっては助言を行う。
	欠席・遅刻・早退をゼロに近づける	仰星コース 第1学年	○日頃の担任からの健康管理についての呼びかけや、生徒面談を積極的に行うことにより、生徒のメンタルケアを意識した指導を行う。
	規則正しい生活習慣	仰星コース 第2学年	○早朝、朝学習で学習室を利用させるなど、生活管理に基づいた学習習慣を身につけさせ、欠席・遅刻・早退ゼロを目指すようHRで指導する。 ○時間を有効利用し、学習時間を確保させるため、生活の記録を毎日記入させ点検指導を行う。
	遅刻、欠席を減少させる	仰星コース 第3学年	○朝のST前10分間を用いて、小テスト等を実施し、遅刻者減少に努める。 ○各学期の設定月(5月と10月)における遅刻者数(平均値)を学年全体で集計し、生活指導に生かす。(ただし、長期欠席者は除外する)
	規則正しい生活習慣の確立	生徒指導部	○ST, LHR, 学年集会、生徒指導部講話等で生活習慣の大切さを理解させ、基本的な生活習慣の確立を図る。 ○交通事故との関連も含めた指導で、8時40分登校の徹底を図って遅刻の防止に取り組む。 ○自己責任による遅刻防止のため、遅刻の多い生徒に対する個別指導を行う。また、家庭連絡の上、協力を依頼する。 ○毎日の校門指導で明るい挨拶と校門の一礼の率先指導をする。 ○生徒指導カードで朝の状況等を学年へ迅速に伝えて連携指導をする。
	制服の正しい着用	生徒指導部	○ST, LHR, 学年集会、生徒指導部講話、服装頭髪検査、校門指導等で制服の正しい着用の必要性の理解と徹底を図り、全職員で生徒の健康や安全を守る。特に女子生徒のスカート丈を重点指導する。 ○注意指導しても改善されない場合は、家庭連絡の上、段階的な指導を行う。
	挨拶と身だしなみの向上	仰星コース 生徒指導部	○生徒指導部による登校指導・下校指導を通して生徒の身だしなみを指導する。 ○服装頭髪検査も職員で一体感を持って取り組み、一度で合格するように生徒を指導する。
	時間を意識した行動		○登校指導を通して、時間に余裕を持った登校を促す。 ○集会を通じて改善すべき点を指摘し、時間を意識した行動がとれるよう個々の生徒の指導を行う。
心を込めた作業	○清掃中巡視を行って、清掃監督者と連携して清掃場所への速やかな生徒移動を促すとともに、時間を有効に使った清掃を行う。 ○ボランティア清掃を奨励し、積極的に参加するよう生徒に働きかける。		
II GTZ等の改善	学習習慣の定着・学習意欲の向上	第1学年	○スタディーサポートを積極活用し、事前シートを使用して到達目標を設定し、学習計画を立案させる。 ○結果を基にした事後の振り返りシートを使用して、自己の学力状況を把握させ、次回に繋げる。
	学力の保持・増進	仰星コース 第1学年	○自主学習プリントを配布して、朝の学習の推進を行う。

Ⅲ アクティブ・ラーニングの推進	アクティブ・ラーニングの理解とその取組	教育研究部	○教職員が教授法としてのアクティブ・ラーニングを「主体的・対話的で深い学び」として理解できるよう、内外研修会を企画または紹介する。 ○アクティブ・ラーニングの取組を実践できるように環境を整える。
	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の増加	仰星コース 学習指導部	○単元の始めに学習の動機付けとして、また、展開の場面で学習の深化を図るためとして、アクティブ・ラーニングを授業に取り入れる。 ○教員研修を実施する。
Ⅳ SGH活動の推進	SGH活動による学力の向上の推進	仰星コース 第1学年	○SGHに関わる授業における生徒の活動を担任が支援する。 ○SGH活動についての評価規準を設定して評価する。
際 交流の活	姉妹校提携を進める	庶務部	○日本の高等学校と関わりのあるオーストラリアの高校に連絡を取り、交流を打診する。お互いの利害関係が一致すれば、交流をはじめめる。
Ⅵ 特別活動の活性化	外庭除草の励行	教育相談部	○校内の環境整備を目標に、外庭の草取りをする雰囲気を作り出すために花壇の整備をおこなう。
	ボランティア清掃の実施	庶務部	○ボランティア清掃への意義・目的を周知させ、参加者を募る。
Ⅵ 特別活動の活性化	部活動の運営の把握と管理	部活動支援室	○各クラブの活動計画に基づいて現状を把握し、運営・管理を徹底することに努める。また、安全管理のための施設整備に努める。 ○各種大会日程や結果を広報し、部活動の活躍を応援する。また、全国大会出場に向けての環境づくりと支援を目指す。
	強化クラブの運営	部活動支援室	○「スポーツの星城」をより推進するための計画を立案し、入試広報部との連携に努める。
安全・健康の保持増	通学マナー・モラルの向上及び交通事故防止	生徒指導部	○自転車通学者指導や交通講話を行い、事故予防及び交通ルール遵守などの安全教育を進める。 ○朝の交通指導や登下校指導を実施し、通学路の遵守と通学マナー・モラルの向上を図る。 ○交通事故や校外からの苦情を生徒に伝えて注意を促し、交通安全に務めさせる ○携帯電話の取り扱い指導を徹底し、トラブルを防ぐ。
	不登校生徒の登校への取り組みの充実	教育相談部	○スクールカウンセラー・担任・学年主任・教育相談部が連携を図り、不登校生徒が少しでも学校に来られるように支援をおこなう。
Ⅷ キャリア教育の推進	各種検定の受検と合格	第2学年	○各種検定を積極的に受検させるとともに検定合格を目指す。 ①Classiで各種検定に関する情報を定期的に生徒に配信する。 ②検定対策アプリを生徒に紹介して検定合格に向けた学習をさせる。
	タブレットPCの活用		○タブレットPCを朝学を中心とした学習活動で活用し、生徒の主体的な学びにつなげる。 ①1週間単位で朝学の科目を切り替えるように計画し、配信ミスや配信忘れが起きにくい環境をつくる。 ②朝学の問題を生徒に実態や授業の進捗を考慮して検討し、生徒の学力向上につながる学習にする。
	生徒の個性を尊重し、能力・適性に応じた進路の決定	第3学年	○第3学年職員が情報共有しながら、生徒一人一人の「吾は何をなしつつあるか」の自問自答を見極め、将来、社会で貢献・活躍できうる大人になるための進路指導を行う。
	確かな学力の定着	進路指導部	○特進担任会などで特進コース全体で数値目標を共有し、学習指導に当たる。

VIII キャリア教育の推進	星城大学進学者の増加	進路指導部	○第3学年と進路指導部が一体となり、進路選択を迷っている生徒に対し面談を行い、内部AO・内部推薦の受験を促す。
	国公立大学・有名私大合格者の増加		○特進コース生徒全員が、大学入試センター試験は5教科型を受験する。 《特進コース在籍生徒全員が5教科型で受験する》 ○単に偏差値の高さだけにとらわれず、生徒個々の目標・能力に応じた指導を行い、合格実績を伸ばす。
	第一次就職内定率の向上		○筆記試験や適性検査に備えた対策問題集を用いた学習会を、授業後に実施する。 ○面接対策として、個人・集団面接の演習を就職希望生徒一人に対し、10回以上実施する。
	研究施設や大学学部への訪問や見学、体験、進路講話などの充実。	仰星コース 進路指導部	○生徒達に、社会で求められる能力や人材を理解させるために、ベネッセや河合塾による進路説明会、社会人として活躍する卒業生による講話を聞かせるとともに、分子研やJICAの見学、夢ナビプログラムやオープンキャンパスへの参加や、イングリッシュキャンプや海外研修、海外修学旅行などの実体験をさせる。